

2010 年度国際文化学部・研究旅行奨励制度 【グループ】

名 前	島 弘美, 大海陽子 林 真子, 岩永千史	研究テーマ	中国における茶文化
目的地	国 名	地域・都市名	
	中国	上海、安徽省、杭州	

研究旅行の目的

この研究旅行は「中国における人とお茶の関わり」について調査することを目的としています。中国のお茶は、紀元前 2700 年頃に茶樹が発見され、その歴史が始まりました。中国の人々にとってお茶とは、コミュニケーションの道具とされ、お茶を囲んで話をするなど日常からビジネスの場まで幅広い分野で利用されてきました。そこで、私たちは、その「お茶」のルーツ、お茶と人との関わりに注目しました。なぜこれほどまでにお茶が親しまれてきたのかという疑問のもとに、中国人のお茶に対する考え方や関わり方を研究することで、中国人特有の精神や思想についても学ぶことができるのではないかと考えたからです。この研究テーマは、大学で中国という国を主な研究分野にしている私たちにとって、とても重要で興味深いものです。2 年間学んできた中国語を実際に使いながら、お茶の生産者や消費者の生の声取材することで、これまでの大学での学びをさらに意味深い、豊かなものにすること、これもまた私たちの研究旅行の目的です。

期待される成果

中国の食文化に欠かすことのできないお茶について、それがどのように作られ、どのような状況で飲まれているかを、実際に現地を巡りながら調査し体験することで、その歴史や奥深さに触れることができます。ペットボトルで売られている冷たい烏龍茶しか知らない日本人の私たちが、中国の原産地や都会のティーハウスを訪ね、生産者側と消費者側の思いやこだわりを探ることは、日本の若者には馴染みの薄い、中国の「お茶の文化」とその精神を学ぶための貴重な体験となるでしょう。喫茶文化の原郷と言われる中国で人々の精神に触れ、言語や雰囲気自ら体験することは、今後の私たちの卒業論文に向けた研究のためにも、多大な利益をもたらしてくれるものと考えます。

日程表

旅行期間： 2010 年 8 月 27 日 ～ 9 月 6 日 [11 日間]

第 1 日目		福岡出発。 上海へ移動。
第 2～4 日目	安徽省 (黄山)	上海から安徽省黄山へ向かう。黄山毛峰という有名なお茶の産地、黄山で茶畑を見学。茶畑の様子・生産過程・お茶のいれ方・お茶の味などを現地調査を通して体験。
第 5 日目	祁門	祁門へ移動し祁門紅茶について茶畑の調査
第 6～8 日目	上海	上海へ移動。多くの茶館を訪れ様々な種類のお茶を試飲。都会において、どのお茶がどんな年齢層に人気があるのか、最近流行のお茶は何なのか、どんな工場でどのお茶が飲まれているのかなど、現代の中国人の日

		常におけるお茶文化について取材調査。
第9～10日	杭州	上海から杭州へ移動。茶葉博物館を訪問。中国各地のお茶の資料があるので、学芸員の方に取材調査。また龍井の和茶館を訪問し、名水でいれた龍井茶を味わう。龍井茶に関わる現地調査を行う。
第11日目	福岡	帰国

【まとめ】

中国における茶文化

島 弘美（グループ代表）

今回、私たちは一人一人役割分担をして研究に臨みました。下調べから、現地でのスケジュール、現地でのアポなど土地ごとで手分けをしたために、大変効率よく調査を進めていけたように思います。自分一人の語学力（中国語・英語）では足りないときも、お互いにフォローし合い、現地の人に道を聞いたり、タクシーに乗ったりすることができました。英語を話せる人はあまりおらず、地方のほうは特に訛がひどく、仲間なしには研究旅行を終えることはできなかつたろうと思いました。

この研究旅行をとおして、それぞれが研究したい具体的なテーマをみつけることができました。やはり足を運び自分で感じたことの全てが刺激的でした。ただ歩いていても、「なぜ」「何これ」と感じることばかりでした。日本人の常識から考えると、信じられないことが多く、この「なぜ」「何これ」という感覚が「もっと知りたい」「もっと研究したい」につながったのだと思いました。また、研究を掘り下げるためにも、中国を訪れ、少しでも中国の文化や中国人の精神を理解していきたいと思います。



【報告書 ①】

中国における茶文化

島 弘美

今回私たちは「中国における人とお茶との関わり」を研究することをテーマとしていました。さらに、現地に行かないとできない生の声を聞くために、茶館をめぐる日常においてのお茶とは、また中国人のお茶に対する考えを調査することが目的でした。

そして、私は今回の研究をとおして最も興味をもったことは、「お茶の可能性」でした。そのことにも触れつつ調査報告を進めたいと思います。私たちは黄山（安徽省）、杭州（浙江省）、上海へ行きました。

■ 黄山 →黄山毛峰、太平猴魁

— キーモン紅茶と出逢う —

黄山市内のお茶屋さんを訪ねました。ビニール袋に入ったお茶葉などが店頭にならりと並んでいました。こんな適当に管理されているとは思わず、驚きました。

ここで黄山毛峰は直接耐熱ガラスの透明のコップに茶葉とお湯を注ぎ、その後小さな湯のみに淹れて飲みました。

ふと、私は野茶油なるものを発見しました。お茶が飲むだけのものではなく油としても使用されていることにすごく興味をもちました。そして、黄山毛峰に菊の花を浮かべ菊の香りを楽しめるうえ、のどにもいいそうである。

私は「お茶の可能性」を一番初めに感じたのはここでした。お茶を、油として料理に、また香りや効能は健康のために、その時の自分の体調や、気分に合わせて選ぶことができる面白さがあると感じました。

中国人が日常からよくお茶を飲む心が少し理解でき、近づけたような気がしました。



■ 杭州 →西湖龍井 — 人參烏龍と出逢う—

中国茶葉博物館と龍井村へ行きました。茶葉博物館の付近にはそこらじゅうに茶畑が広がっていました。日本の茶畑のようにきちんと並んで整備されているものを想像していたが、実際は自由に茶樹が育っている様子でした。茶畑にあるのは茶樹以外にきゅうりも生えていました。花や雑草も生えていました。その光景はとても衝撃的でした。こんな管理で西湖龍井茶ができているとは思いませんでした。

茶葉博物館の中にある茶館でインタビューをしました。その内容は最後にまとめて述べたいと思います。

龍井村では龍井の井戸を見ました。これは水の波紋が内側からではなく、外側からおこるという特徴のある井戸だとタクシーの運転手に聞きましたが、波紋の違いなどよく分かりませんでした。

ここの近くの茶館に入り、話を聞いてみると、龍井茶は飲んだあとの茶葉をエビと炒めて料理にしたり、消臭効果を利用していたり様々な活用法がありました。



■ 上海

上海では茶館めぐりをしました。お茶の卸売をしている茶屋、豫園の中心でにぎわっている茶館、万博で中国代表としてお茶のイベントをする先生の茶館、チェーン店になっている茶館などいろいろな茶館をめぐるしました。一番印象的だったお茶は「甜茶」でした。このお茶は甘くて、コーヒーや料理にも使うことのできる砂糖の代用になるものでした。ここでもインタビューをしました。

これらの三箇所での調査を通し、茶館の人、地元の人、タクシーの運転手などいろんな方々から聞いた話やインタビューで得られた情報をまとめてみました。

<人気のあるお茶>

土地によって人気のお茶は変わるという結果でした。なかでも挙がってきたのは、

- ・普洱茶：ダイエットに効果的
- ・人參烏龍：ヨーロッパの方に人気、甘くて飲みやすい
- ・銀白月：ダイエット効果、中性脂肪に効果的

で女性に人気

- ・鉄観音（上海の茶館において）
- ・緑茶、烏龍茶全般（杭州の茶館において）
- ・南は緑茶、烏龍茶の産地のためよく飲まれるが、北では産地ではないためジャスミン茶をよく飲む。

<飲み分けのお茶>

・午前：緑茶（カフェイン入っているため元気がでる）

・夜：烏龍茶、普洱茶（カフェインが入っていないため眠りやすい）

・お客様におもてなしするお茶は？

これといって決まったものはなく、地方によって違う。その土地の名産のお茶を出す。

龍井茶（杭州において）、烏龍茶・ジャスミン茶（福建省において）など・・・



<新種のお茶>

・人參烏龍：福建省産。疲労回復、頭痛や痰をのぞく効果がある、甘いのが特徴。

- ・果物茶：ライチやリンゴなどのお茶。香りは甘く、飲むと甘くないのが特徴。
- ・月光白：雲南省産。台湾人が雲南で開発。フルーツの香り、酸味がある。心臓病に効果的

<お茶の多様性>

～料理として～

- ・龍井茶：飲んだ後の茶葉をエビと炒める
- ・甜茶：粉々にしてコーヒーにも紅茶にも砂糖として代用できる
- ・草仙：わかめのような香り。スープやだしにも代用できる

～薬として～

- ・人参烏龍：頭痛、痰を除く、疲労回復
- ・月光白：心臓の血管を柔らかくする、心臓病に効果的
- ・銀白月：肥満・便秘を改善
- ・青葉：消化不良、食欲不振に効果的
- ・甜茶：花粉症、皮膚病に効果的
- ・金蓮花：のどの痛み、風邪の予防
- ・聖火：疲労回復、免疫力の向上、更年期障害の防止

お茶にはそれぞれが殺菌作用、利尿作用をはじめとする様々な効果をもっています。昔は漢方として利用されてきました。しかし、お茶は漢方よりもよいと言われています。それは、漢方（薬）は一日に決まった回数で決まった量しか飲むことができない。お茶はそういった決まりはなく、何回でも好きな量を、好きな効果を組み合わせて自由に飲むことができるのです。

～その他～

- ・龍井茶：飲んだあとの茶葉の消臭効果を利用して、下駄箱や匂いが気になるところにおいておく

<地元の方の声>

- ・昔はお茶をお酒の代わりとして飲んでいたようですが、現在もお茶をお酒としてのんでいますか？
→いいえ、全く別物です。お茶はお茶、お酒はお酒です。
- ・日本では主に冷蔵庫で冷やしたお茶を飲むことが多いですが、お茶を冷やして飲むことはしますか？
→いいえ、基本的に冷やすことはしません。お茶は熱いまま飲むものです。冷やすことはしなくても、そのまま常温に置いてありぬるいお茶を飲むことはあります。
- ・では、暑い夏に冷たいものを飲みたいときでも、お茶を冷蔵庫で冷やすことはしないんですね？
→そんな時は、お茶を飲まず、冷えたジュースを飲みます。
- ・普段飲むお茶はお茶だけの茶屋で買いますか？
→スーパーで買います。
- ・(タクシーの運転手の水筒を見て) ずっとジャスミン茶の花が入れたままのお茶をのんでいるようで

した

今回の研究旅行を通して受けたカルチャーショックがすごくいい刺激であり、とても面白かったです。

現地の人と話をすることは、リアルな日常の意見でした。日本と一緒にだと思えば違う点もありました。家庭で飲むお茶は、特に茶屋で買うことはせず、スーパーで買うところは一緒だと思いました。でも、冷蔵庫に入れないという点で、お茶を冷やすという考えはないところが全く違うなと思いました。日本人は気温や、その時の食べ物に合わせて熱々のお茶か、冷えたお茶を飲みます。ましてや、凍らせて持ち運ぶことだってあります。

そして、お茶の多様性、お茶の可能性について興味を持ちました。

お茶は飲むだけのものではありません。料理の分野にも足を踏み入れ、薬としての世界にも足を踏み入れています。自分のその時の気分や体調に合わせて、お茶を選び、組み合わせ飲むことができます。そこにとても魅力を感じました。花や果実が入ったお茶は見た目も綺麗です。選ぶ楽しみ、香る楽しみ、見る楽しみ、味わう楽しみがあるな、と感じました。中でも、料理の分野、医学の分野に興味を持ちました。

そんなお茶の可能性に目を向け、他にどんな可能性を秘めているのか研究していきたいです。いったいお茶は我々の生活のどれくらいまで占めることができるのか、必要とされるのか、お茶は自然のもので体によく環境にも良いと思います。そんなお茶が生活のあらゆる面で使用することができるようになると、環境保全にもつながると思います。

そして世界中の日常でお茶が必要とされれば、中国はさらなる発展をするだろうと思いました。そのようなことを想像してみると、お茶の可能性は奥深く、お茶というキーワードをもとにこれからの未来を考えていきたいです。

こうして、卒論につながるテーマがはっきりしてきて今回の研究旅行はとても意義ある、これからにつながるものだったと思います。現地について自分の五感で感じるからこそ見えてくるものがありました。自分の研究したい詳しいテーマがはっきりしたからこそ、次に中国へ足を運べる時は、もっと詳しいところまで研究するために情報を集め日本でできることの全力を尽くしていくことができると感じました。本当に研究旅行に参加できて良かったです。